

令和4年度 自己評価・施設関係者評価報告書

1. 本園の教育及び保育の目標

知・徳・体、調和のとれた保育
ほとけさまを拝みます／お話をよく聞きます／なかよく遊びます

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画を基に設定した園評価の具体的な評価項目や計画

(3歳以上児) 自分らしさを発揮して、輝く個性を認め合おう
(3歳未満児) わくわく・ドキドキを大切に「やりた、できた」の芽を育もう

3. 自己評価の実施状況 / 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 実施日	令和4年11月1日(火)	評価 方法	毎月の保育の振り返りを基に、園で定めた50項目に沿って評価する。
-----------	--------------	----------	----------------------------------

	評価項目	評価	取り組み状況
1	子どもを前に感情的になることはありますか	C	つい感情的になってしまう部分もあったため、ベストな対応は何か話し合いながら取り組む。
2	子どもと感動を共有していますか	A	小さな出来事も言語化し、子どもと共有できるように意識して取り組んでいる。
3	こどもの多様な意見を受け止めていますか。	A	子どもたちとの日々の振り返りを通して、一人ひとりの意見を受け止められている。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 施設関係者評価の実施状況

- 日程 令和4年11月24日(木) 9:20 自己評価等閲覧確認(園長室)
10:00 公開保育(3~5歳児各保育室)
11:00 評価(園長室)
12:00 終了

- 評価者 施設関係者 小学校校長、幼稚園園長、保護者役員代表

保幼少中連携関係者 8名

3. 評価方法 自己評価、指導案等を閲覧、確認後、公開保育を用いて施設関係者より評価をいただく。

4. 評価者の意見

□小学校長（施設関係者評価者）

・遊戯室：先生が園児を注目させてから、過去の活動の振り返り、今日の保育の見通しを立てて説明していてよかった。

・廃材製作：教具等の数の問題もあると思われるが、個の活動をもっとやり易い環境を整えるとともに、テーブルを逆に減らして互いに会話しやすい環境（向かい合って座るなど）にすると会話をもっと生まれるように思う。

たかはしけいし君が鳥を製作しようとしていて、完成に至らなかったが満たされている様子でよかった。15センチという長さを知るために先生が物差しを持ってきてくれたことによって、長さに関する関心、感覚が育まれたと思う。先生の肯定的な声掛けもよかった。

・秋の制作：木がたくさん飾られていくことで活動の進捗状況がわかりやすい。高いところに飾りたい園児の思いに、どうしたら飾れるか問いかけすることで主体性を大切にしていると感じた。ジョージと年長児、年少児の関係性がどのようなものか興味を持った。

・レゴ／ままごと：線路を床に作ることで一人遊びから複数（4人）に遊びが発展、協同でキャンピングカーを製作、遊ぶうちに、別の園児も遊びだして時間とともに遊びが広がっていた。

・かるた：異年齢の構成を先生が誘導することで年長児から年少児への声掛けがスムーズにできていてよかった。

□幼稚園長（施設関係者評価者）

・全体：各保育室のねらいはよくわかったが、全体として異年齢交流としてのねらいが少しぼやけていたように思う。

・積極的に参加できない園児に対し、積極的に声掛けができていた。

・レゴ／ままごと：校長先生が園児に関わったとたんに遊びが活性化されていた。人員の配置もあると思うが、先生の関わりがもっとあると遊びが広がったように思う。

床にテープで線路を作ったことで遊びの幅が格段に広がっていてよかった。男子年長児と女子年中児の遊びの繋がりができていた。

・廃材製作：個で製作していた園児同士が、それぞれ一緒になって遊びだしていた。さらに協同製作へと繋がる期待が感じられた。

・秋の制作：ジョージがいることでままごとへと発展していて面白かった。木を正面に据え

て環境構成がとてもよかった。

・かるた：ルールが徹底されていてよかった。途中から入りづらいようだったが、子ども同士で声をかけあってはいる園児もいた。異年齢でペアを組むことで園児同士の声が非常に多くてよかった。

□保護者代表（施設関係者評価者）

・廃材製作：先生の指導の通り、ハサミやマジックを使っていた。

外国人の先生が園児と英語で色を会話していたり、普段の生活にも英語が触れられる環境にあるとわかりました。

・レゴ／ままごと：園児同士でルールを決めて仲よく遊んでいてよかった。電車を線路で走らせる際、協力して作成する姿、また異年齢の交流もあるなかで、小さい子にやさしく接していたり、年長者を敬う気持ちが育まれていると感じました。

・秋の制作：園児のやりたい気持ちに肯定的で主体性を引き出そうとする言葉がけが良かったです。

かるた：ルール確認でできていて異年齢でありながら落ち着いてゲームに参加できていました。うまくカードが取れなかった園児への声掛けも良かったです。

マイクの不調が少し気になりました。

・活動終了 10 分前の放送で全員が心の準備ができていたよかったです。

・全体：園児一人ひとり声を先生方がよく聞いていると感じました。何をやるか決められない子にやりたいことを見つけられるまで寄り添ってくれていて安心しました。

□A 幼稚園教諭他

私どもの園も異年齢保育の時間があるため、今回見させて頂いた異年齢交流の活動はとも参考になりました。

特に、異年齢での集団遊びの際のペア作りで自然と異年齢で交流が生まれるような環境作りや製作時に、年下の子が年上の子に折り紙の折り方を聞けるような援助をされていた姿が私も日々の保育の中で取り入れさせて頂きたいと思う点でした。

また、お忙しい中、未満児クラスの保育の様子も拝見させて頂くことができ、とても参考になりました。

□B 幼稚園教諭他

異年齢児の交流ということで、コロナ禍で取り組むことが難しいと感じていたことだったので興味深く見させていただきました。異年齢で一緒に過ごすことで小さい子が大きい子の様子を見て学んでいる姿があったり、大きい子が自分より小さい子に優しく声をかけペースを合わせ動いていたたり、手伝ってあげながら一緒に遊んでいるなどの姿を見ることができました。異年齢の交流だからこそ生まれてくる子どもたちの気づきや育ちがあり異

年齢児交流の良さを感じることができました。

また、自分でやりたい遊びを選ぶことでじっくりと遊びに取り組んでいる子どもがたくさんいたことや先生方が、子どもたちの話を丁寧に聞きどうしたらいいかを考えていけるように声をかけていた姿が印象的でした。

今回、見せていただいた保育を自園の保育の参考にさせていただきたいと思います。

0. 1. 2歳児の保育室も見せていただきありがとうございました。

□C 幼稚園長他

・子どもたちの”今”興味のある遊びを理解し、環境設定を行っていてとても良いな、と思いました。

・廃材遊びコーナーでは、ハサミスペースがあって安全に使用していました。参考にさせていただきます。

・廃材等もとても丁寧に使用しており、普段の保育からしっかり伝えているのがわかりました。

・カルタの遊びでは異年齢で助け合いながら遊んでいて、お互い良い刺激を与え合っている姿が見られました。

・木の制作の遊びでは、遊びの継続があり保育の連続性が感じられとても良かったです。

・子どもたちが自分達のやりたい遊びを選び、どのクラスも集中して楽しむ姿が見られました。

・職員の配置の面では、とてもしっかり連携が取れていました。子どもの人数に合わせて職員が動いていたり、輪の中に入れない子どものフォローにまわったりしていて、連携がとれていて素晴らしいなと思いました。

・インカムを付けて子どもたちの前で話していて、自園でも取り入れたいと思いました。マスクをして話すことで喉を痛めやすいので、参考にさせていただきます。

□D 保育園副園長他

施設がすばらしく、ステンドグラスの、の様には圧倒されました。

また、異年齢交流とのことで職員の皆様が話し合いをし、計画をたてて自分の役割を行っていて連携の大切さを学びました。園児の皆様が好きな遊びを選び集中し、また協力しあいながら楽しく過ごしている姿ばかりで、職員の皆様が良く見ていてそっと手を差し伸べていて素晴らしい保育をされているなと思いました。

当保育園でも園児の主体性を大切に、自分で選んで行うことをもっと取り入れていきたいと思います。

5. 施設関係者による評価（上記 3. の自己評価結果に関する評価）及び意見の概要

子どもたち一人ひとりの活動によく目が行き届いており、またスムーズに保育が進行できるように工夫がされていた。

6. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	子どもの人権へ配慮	園内研修を実施し、子どもの人権に関する知識を高め、日々の保育の中で意識する。
2	コミュニケーションの向上	保育者・園児・保護者の連携強化をすため、オンライン参観や保育参加などを通して情報共有を図る。
3		

以上